

User Report

食品運送

株式会社新鮮便

Gマーク評価点に加え、“気づき”を促すシミュレーション体験。安全意識を根づかせる土壌作りに役立っています。

アルコール検知器だけでなく、東海電子では適性診断（一般診断）と危険予知トレーニング（KYT）ができるドライビングシミュレータ「ACM300」も取り扱っていることをご存知ですか？今回はこの機器を導入し、安全意識の醸成に役立っている株式会社新鮮便をご紹介します。

ご利用機器



PC、ステアリング、ペダル、プリンターがセットになった卓上型ドライビングシミュレータ「ACM300」



導入の経緯

シミュレータ活用は自社では無理？ それを可能にしてくれたのが ACM300

大川氏：当社は24時間365日、3温度帯をカバーする食品全般の物流企業として、関東を中心に事業展開しています。全従業員の約6割にあたる400名余りがプロドライバーで、通勤に関してはほぼ100%が車を使用。そのため、運転時の安全指導は不可欠であり、15年ほど前から県警OBを安全対策課に専任登用するなど、事故防止に努めてきました。

ただ、従来型の安全指導では限界を感じていたことも事実です。ドライビングシミュレータを使った方法があることも知ってはいましたが、施設に行く時間やコストを考えると、24時間体制の当社では事実上不可能だと思っていました。そんな頃、東海電子のセミナーで「ACM300」のことを知ったのです。自ら体験した印象は、「これならゲーム感覚で危険予知や“かもしれない運転”の大切さを理解してもらえる」。プリンターを含めたオールインワンの可搬型という点は、拠点の多い当社には好都合で、Gマーク評価点になることも大きなメリットと感じました。

その後すぐに社長に上申し、役員へのデモンストレーションを経て2015年春に3台を導入。現在は、事務職を含めた車通勤者全員が年3回受診できるよう各営業所を巡回させ、適性診断（一般診断や安全教育）に活用しています。具体的には、仕事の合間や休み時間を利用してシミュレーションを行ってもらい、診断結果を付属のプリンターで出力。理解を促すため、独自に作成したKYT記入シートに今後の留意点も記入し、提出してもらっています。

取材ご協力

株式会社新鮮便

業務管理部 部長
第一種衛生管理者 **大川 治郎** 様

〒379-2201
群馬県伊勢崎市間野谷町1-20
TEL 0270-62-8822 FAX 0270-62-8540



結果の活用と 安全に特効薬はない。継続と工夫で 導入効果 安全意識の共有を促す

大川氏：操作に慣れないうちは、シミュレータ上で事故を起こしてしまう人もいました。しかし、それを直ちに危険とは判断しません。疑似体験なら事故を起こしてもいいんです。そもそもの狙いは、運転技能の向上ではなく、路上に潜む危険因子を知り、「かもしれない運転」の大切さを肌で感じてもらうこと。それを知り、現実社会で事故防止につながればいいのです。

では、診断結果をどのように活用しているかという点、一定基準を下回った社員については前述の安全対策課が面談を行い、安全意識を再確認するアドバイスを行っています。その際気をつけているのは、指導する側・される側という関係ではなく、あくまで支援者として働きかけること。年3回の診断が苦痛になってしまえば元も子もないですから、本人の安全のために…という相互理解の環境をつくるのが大切なのです。「結果が悪いと給料が減るの？」と心配する社員もいましたが（笑）、もちろんそういったこともしていません。

まだ年次比較はできませんが、確実に事故は減ってきています。現時点では2割ぐらい減っており、実車搭載のドライブレコーダーで危険と判断される記録データも減少してきました。

安全対策に特効薬はありません。「ACM300」導入で安全意識を根づかせる新しい土壌はできたと思いますので、今後はそれを活かすべく工夫を重ねることで、安定した運行実績を積み上げていきたいと考えています。

取材後記 同社では、代表取締役自らが安全教育の重要性を深く認識し、リーダーシップを発揮している。と言っても、それは一方的な押し付けではなく、社員に過度の負担をかけないよう運用面で工夫されており、ドライビングシミュレータの活用上、学ぶべき点が多いと感じた。

導入のメリット

- これまでとは違った形での「安全」への動機付け
- Gマーク評価点（一般診断）

（株）新鮮便での導入効果

- 事故の減少（概算で2割）
- ドライブレコーダーによる危険記録の減少